

18. 貸付資本

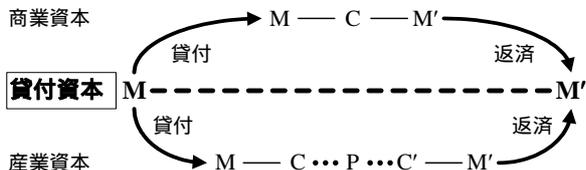
資金の有効活用

貸借対照表で見ると...

借方	貸方	
資産	負債	金融機関からの借入、社債など 買掛金、支払手形など
	資本	
	他人資本	= 有利子負債
	自己資本	= 無利子負債

貸付資本

- 基本ラインは企業間での金銭貸借
→ 実際には金融機関によって媒介



返済・利子支払能力

- 企業活動すれば一定の利潤を期待
- 実際に獲得した利潤の中から利子を支払うことが可能

利潤	
利子	企業利得

資金需給

- 企業活動の中で
- 一方では資金供給
 - 余分な無駄金, 準備金, 積立金など
 - 他方では資金需要
 - 追加投資, 固定設備の更新など

信用の意義

- 掛け売り
 - 代金支払に対する信用
 - 取引はすでに成立した
有効需要の置換
- 貸付
 - 金銭返済に対する信用
 - これから取引を引き起こす
有効需要の増大

利子のコスト化

- 利子分しか稼げない企業活動は無意味
- **割引現在価値**
 - n 年後の A 円は、現在では $\frac{A}{(1+i)^n}$
- **資本還元**
 - 定期的収入をもたらすすべての資産は価格付け可能
 - > 理論地価・理論株価など
 - 毎年 R 円の収入をもたらす資産の価値は $\frac{R}{i}$

実体経済と貨幣経済

- 企業活動によるカネモウケ(利潤を生む)から貸付によるカネモウケ(利子を生む)が分離
- ↓ これによって
- 実体経済から貨幣経済が分離

貸付資本の社会的意義

- いい面
 - 資金の有効利用
 - 人材の有効利用
- わるい面
 - 不安定化 = 信用リスク

貸付資本の歴史的意義

- 前近代社会の高利貸し
 - 消費者・非商品生産者向けの高利貸付
利率の上限なし
- 現代社会の貸付資本
 - 企業向けの低利貸付がベース
期待利潤率が利率の上限
 - 逆に言うと、現代社会でも、消費者向け貸付は高利
利率の法的上限の必要性
闇金業者
消費者金融への銀行の参入
- ひとえに、産業を企業が支配しているかの違い